



エチオピア駐在員の便り vol.3

## 愛ちゃんのラリベラ生活日誌

村上 愛子 (むらかみ・あいこ)

2004年1月から2006年3月まで赴任  
保育士として働いていた彼女は、いわゆる癒し系。その人柄でいち早く現地にとけ込み、プロ級(?)の腕前であるマッサージは現地の人たちにも大人気だった。英語も堪能で、NPO認可後の基金の事務処理や現地事務所の基盤作りに貢献。1970年東京都生まれ。



はじめまして

2004年4月

こんにちは。皆様お元気ですか?初めまして、村上愛子です。FFFの次期駐在員の内定が決まってから、出発まであつという間に時がたち、時間がゆっくりと流れるラリベラでもあつという間に2ヵ月がたとうとしています。

日本では桜が咲き、春の風が吹いている季節でしょうか?こちらラリベラは朝晩は過ごしやすく、昼頃から3時くらいにかけては、とても日差しが強くなります。一番遠いサイトに行く時には(片道6キロ、アップダウンのある高地ではまだまだ鍛えられていない私は少しの上り坂でも息があがり、2時間近くかかりました。)お日様が高く上がらないうちに着くようにと、こちらを7時ごろに出発します。

FFFのプロジェクトの中で一番遠いこのナクテラ小学校は、小さな泉と井戸があるためか草木があり、とても気持ちの良い場所です。FFFではこの泉を利用して、苗畑等のための池を作る準備に入っています。またラリベラ、ナクテラ、ゲテルゲの3つの小学校では環境クラブの子供達の水遣り(学校によっては水不足のため近くの川から水をくんでの水遣りです)、トマト、キャベツ、人参等がすくすく育っています。テクニカルスクールからも参加した

いとの要望があり、現在4つの学校で、木の苗畑作りがはじまっています。

その他のプロジェクトではラリベラ小学校に建設中の倉庫とバイオガス。3日に一度、水を供給しているラリベラでは、工事のために十分な水を得ることが難しいようですが、水がこない時には日雇い人を雇って、近くの川から水を運んで仕事を進めています。こちらに来て、水の大切さを改めて感じています。

生活の中で感じたことをいくつか。エチオピアの歌が、日本の演歌にとても良く似ているのです。ここは日本?と思うほどです!それから人もどこか日本人に似ている気がします。丁寧で、親切で、恥ずかしがりやで、とても人情にあつと感じました。そしてアムハラ語。シュルシュル(散歩)ズルズル(お釣り)トロトロ(早く)等、馴染みやすい音の言葉があり、まだまだ挨拶程度しかできない私ですが、言葉の勉強も頑張りたいと思っています。

事務所から見えるアシェテン山をはじめ、見渡せば堂々とそびえたつ山々に、『皆さんの思いと共に緑が広がっていきますように!』と願いながら、終わりにします。ではまた。



人との出逢い

2004年6月

こんにちは。皆様お元気ですか?

3月22日、駐在員交替の手続きのため麻菜さんと2人アジスに向かい、4月9日に全ての手続きを無事に終えて、ラリベラに戻ってから早1ヵ月が経ちます。アジスでは麻菜さんに教えていただきながら手続きのため次から次へと書類を揃え、何度も足を運んで1つずつ手続きを終えることができました。アジスに来るまでアジスのことは右も左も分かりま

せんでしたが、麻菜さんと毎日のように手続きのためミニバスに乗って移動し、アジス滞在の間お世話になった小林さん宅ではおいしい日本食を頂き、また小林さんを通じて日本の方と会う機会を得て、少しずつアジスに慣れることができました。麻菜さんと4月9日にアジス空港でお別れしましたが、翌週にボランティアで水プロジェクトを手伝ってくださる関さんがラリベラにいらっしゃいました。

愛ちゃんのラリベラ生活日誌

以前から地元のNGOに挨拶に行きたいと思っていたところだったので、関さんといくつかのNGOに挨拶と水プロジェクトの話を聞きに行き、彼らのサイトを見学してもらいました。また以前富美さんと一緒にFFFで働いていたイヘノを通じて、ラリベラに植林をするというフランス人の方達にも会って話をしたりと、人と出会う機会が続きました。人と会って、人を通じて色々な変化が生まれているように感じ、人との出会いに感謝です。

さて、FFFプロジェクトですが各学校の人参やマト達は見事に実り、収穫期を迎えました。私達スタッフも少しずつつけて試食しました。愛着がわくのでよけい美味しく感じるのでしょうか？とても美味しかったです。

ラリベラは毎年5、6月が最も水不足になるそうですが、今年の小雨季に雨がほとんど降らなかったため、4月末から水供給が3日に1度から5日に1

度になりました。スタッフも各学校の生徒も先生も最善を尽くしてくれていますが、木の小さな苗たちは少し元気がなくなっているようです。大雨季まで小さな苗たちが頑張ってくれているよう祈るばかりです。

先週末にナクテラ小学校のスタディツアーで、シュウムシャというエチオピアンオーソドックス教会の苗畑場見学に行ってきました。生徒達には少々遠い場所でしたが、キャッチアベバ川から水をひいて傾斜を使って自然に水遣りの出来るシステムになっており、水が豊富にあり野菜や果物が豊かに実るとても素敵な場所でした。約170名が参加し、生徒達は真剣にメモをとったり質問したりと、とても有意義な時間を過ごしました。水があるということはほんなのにも豊かなのだ…と実感させられた場所でした。ラリベラにシュウムシャのように豊かな緑と水が戻ってきますように、と思いながら終わりにします。



## 自然の力

2004年9月

ラリベラのスタッフはスタディツアーや植林が続くここ数週間、いやな顔をひとつせず休日返上で元気に働いてくれています。6月20日過ぎ、ラリベラに雨が降り始めました。大雨季が始まった訳ではありませんが、7月に入るまでの辛抱！と思っていた私にホッと一息つかせてくれる恵みの雨でした。雨のラリベラは冷えこみ、時より顔を出す太陽がすでに恋しいくらいです。

先日スタディツアーの皆さんを空港に迎えに行く際、車の中から見た風景…たった2週間程の雨、それも毎日降ったわけではないのに裸山だった山肌にうっすらと緑が芽吹いているのです。この数カ月の厳しい乾季で、見た目には緑は全く見られず乾ききった土地だと思っていた私には、本当に驚きの風景でした。

6、7ヵ月続く長く厳しい乾季の間、これらの緑はこの雨を待っていたんだ…そしてたった2週間の雨でこんなに芽吹くのか…とただただ自然の力を目の当たりにしながら車からの風景を見ていました。そんな私に今年もスタディツアーのガイドをしてくれるイヘノは「緑が増えてきたでしょ？9月にはもっと緑が増え、たくさんの花が咲き、本当に綺麗だよ！」と満面の笑み。皆が笑顔で話す緑と花いっぱいの9

月のラリベラが、今から楽しみです。

6月末はまだ雨が少なかった為、スタディツアーの方々との植林は小規模になりました。子供達、ツアーの皆さんが共に木を植え、その時の子供達や皆さんの笑顔がとても印象的でした。私達大人もこういう時に子供にかえるのでしょうか？大人のほうがより笑顔がこぼれていたような気がします。7月中旬、十分に雨が降り土が柔らかくなるのを待って村や学校の植林も始まりました。植林した木々達もラリベラの大地に芽吹いた緑のように、力強く、辛抱強く育てたいと願っています。

さてボランティアさんとして私達をサポートしてくれた関さんが日本に戻られてから1週間後、入れ替わるようにクリスティがラリベラ入りしました。

今回は1ヵ月の滞在で、メインの仕事はティムカットという大きなお祭りの際に使われる教会敷地のデザインです。また植林や彼ならではの色々なアイデアで私達をサポートしてくれています。色々な人に助けをもらいながらラリベラの時間が進んでいます。今まで続いた共同生活。クリスティがアイルランドに戻る7月末からしばらく1人になると思いますが、次はどんな新しい出逢いが待っているのでしょうか？



皆様お元気ですか？

8月末、FFF事務所開設依頼お世話になっていたママ、ババ宅から町の中心に近い、広く新しい事務所へと引越しをしました。今まで家族のように接してくれ、安心して日常を過ごせたのはママ達のお陰でした。本当に今まで温かく見守ってくれていたババファミリーに感謝です。1人になる私を心配して、皆が『アイソッシー!』(元気を出して!)と声をかけてくれます。このアイソッシーという言葉の響きと含みはとてとても優しく、心にしみる不思議な、大好きな言葉です。

さて今、新しい水プロジェクトの準備の為にアジスに出張しています。今回はホテルに滞在するため、アジス初心者の方は1人で大丈夫かと心配していましたが、偶然飛行機でスタッフの兄弟に会い、色々助けってもらいながら仕事を進めています。また、滞在先のホテルでも日本の研究者の方々と出会い、そこからまた色々な日本の方々を紹介して頂きました。この中にはクリスティを知っている方や以前ラリベラで出会った方がいたり、知合いができたことでとても心強くなりました。出逢いとは本当に不思議なもの、そして感謝です!

FFFの活動ですが、今年は昨年に植林した場所の近隣と川の両脇、各小学校に植林をしました。植林後各場所をスタッフが見まわっており、この雨季の間木達は元気にしています。植林直後に植林地を見まわり枯れたように見える木達があるのを見て、慌ててスタッフに話しをしました。経験のあるスタッフは「種類によっては一度枯れたように見えてもま

た新葉がでてくるから大丈夫」となだめてくれましたが内心穏やかではありません。

スタッフと一緒に見まわりに行き、1週間後変化無しに見え心配する私にスタッフが爪で幹を削り、幹は生きているから大丈夫と見せてくれました。2週間後、枯れたように見えた小さな苗木にまたまた小さな小さな新葉があるのを見たときは、本当に嬉しかったです。FFF1年目、色々勉強されてもらっています。

この他、ティムカットというお祭りの際にタボットが運ばれる場所の事業が始まりました。クリスティのデザインのゲートとフェンスを作る予定です。フェンスの工事には教会から2、300人のプリーストが数千もあったアロ工科の大きな植物をどかず作業に参加してくれました。町の人々もこの場所を綺麗にすることを喜んでいてスタッフから聞き、嬉しくなりました。

最後に、FFF事務所が変わり広く新しいオフィスに初めはスタッフ一同どこか照れくさいような気持ちでした。FFFを始めからずっと支えてくれているアベベは『FFFが順調に進んでいる証拠だね、お祝いをしなくてはね!』と嬉しそうに話しました。これは彼だから言える言葉だろう、と思いながら聞いていました。

私はママたちと離れ、改めて感謝の気持ちに気付き、新しい土地では新しい人達との交流が始まり私の中でも新しい風が吹いている感じです。



時がたつのは早いもので、ラリベラに来て早1年がたとうとしています。8月末の事務所の引越しから始まり、緑の募金事業会計提出、水プロジェクトの準備のための2度のアジス出張、この間のテレビの撮影、バイオガス工場の再スタート…。この2ヵ月は、日本事務所の佐藤さんの言葉を借りれば、「突っ走ってきた」という言葉がぴったりの日々でした。

今やっと少し心に余裕が出て振り返れば、このしんどかった日々からも何か学びがあったと感じています。この間に南アフリカで勉強をされていた陽子

さんがボランティアさんとして、事務所にきてくださり、色々と助けていただきました。有難う!

この1年を振り返ると…色々な人に会うことが出来ました。ラリベラに来なければ、たぶん会えなかった人達。同じ日本人でさえも日本では会えず、エチオピアで会えるなんて不思議ですね。そして水の大切さを実感しました。水がなければ何もできない。木も穀物も育つことができない。日本では当然のように使っていた水が生きてる事の基なのだ。

ラリベラの人々のコミュニティーの強さ。きっと

数十年前の日本はこうだったのではないかと感じることが多々ありました。以前、近所の人のお産に立ち合わせてもらった時のことです。ラリベラでは家でお産をすることが多いようです。床に座った近所の人の方が妊婦さんを抱きしめ（座ってハグする格好で）、近所の人達が交互に妊婦さんをサポートして赤ちゃんを出産します。人に体を支えてもらい出産できたらどんなに心強いだろう、と出産の時に人とのつながりが強いラリベラを感じました。

それからアジズで10ヵ月ぶりに入った温泉。アジズには天然の温泉があるのです！ラリベラではペットボトルを黒く塗り水を入れ、太陽に当ててお湯にしたものをお風呂代わりに使っており、アウトドア感覚で楽しんでいました（新事務所にはホットシャワーがあります）。温泉でしかも湯船につかった時の気持ち良さ！食べ物といい、お風呂といい『日

本はなんて素晴らしいのだろう！』と改めて感じました。

プロジェクトは各学校で、子供達と一緒に畝の準備そして野菜の種蒔が始まりました。スタッフからの提案で今年から始まったチバハの挿し木も、順調に成長しています。自分達が関わったものが無事に成長しているのを見るのは本当に嬉しいです。今年1年は全て初めての事であり勉強の1年で、皆さんに支えられ1年を過ごす事が出来ました。そして何より健康に過ごせた事に感謝です。

皆さんはどんな1年を過ごされたでしょうか？少し早いです、皆さんが来年も更に素敵な年を過ごされますように！そして来年もかわらぬご支援をどうぞ宜しくお願い致します。



## 水プロジェクトスタート 2005年2月

皆さん、お元気ですか？明けておめでとうございます。こちらは12月末から1月中旬にかけて香織さんがラリベラに滞在し、植林プロジェクトの昨年度報告、今年度計画と予算、水プロジェクトスタッフ採用試験、水プロジェクトの話合い、各セクターとの話合い、昨年度会計報告等を行いました。

長かった水プロジェクト準備のかがりがあり、ワレダから承認され、後はアグリメントにサインをするだけとなりました。3名の新しいスタッフが増えましたので植林スタッフを含め紹介したいと思います。

植林プロジェクトのプロジェクトオフィサーは長年FFFを支えてくれている33歳のアベベ・メコンネン。昨年病気になりましたが随分良くなり、毎日オフィスにきて仕事をしています。

2人のアシスタントはラリベラのサッカー選手の間では知られていた！？（本人いわくもう年でリタイアとのこと）体力有り、働き者の28歳、アベベ・ウォラシュと私と同期でおっとりしていますが、働き者、ユニークなアイデアをもつビアフリン。

水プロジェクトはプロジェクトオフィサーに以前他のNGOでも働いていたことがあり、穏やかで大変頼りになる34歳、イエロー。イエローをサポートするウォーターエンジニアに新卒フレッシュマンら

しい意欲を感じる25歳、ベタマリウム。

会計にラリベラの女性らしく静かですがしっかりしている22歳、サブレが加わり、オフィスは以前とはどこか雰囲気が違います。私は会計で要調整がありバタバタしましたが会計をした時、「あー、本当に1年が終わったんだ〜」と感慨深かったです。何か自分の中の変化を感じました。

ここ数年、年末になるとその年の初めには想像できなかったことが色々起こっており、人生は面白いな〜と思っていましたが、昨年はきわだっていました。沢山の新しい経験、出会った人々、人々の支え、辛かった事、怒った事、泣いた事、笑った事…（アフリカを長く旅している人から、アフリカではよく怒ったり、笑ったりしていると話を聞きました。私達はアフリカで感情を出すことで癒されているのかもね！？とその人は笑っていました）、色々な事がありました。大きな病気もせず過ごせて本当によかったです。

昨年は走っていた感じだったので、今年は少し歩調をゆるめて、肩の力も抜いて、楽しみながら過ごしていきたいと思っています。（麻菜さんいつも気遣いの言葉を有難う！）

皆さんの昨年1年はいかがでしたか？今年も皆さんにとって素敵な1年になりますように！今年もどうぞ宜しくお願い致します。





## 感情豊かなエチオピア人 2005年4月

皆さん、こんにちは。お元気ですか？ラリベラでは3月始めころから恵みの雨が降り始め、小雨季に入りました。昨年とは違う強く長い雨。雨が降るとぐっと気温が下がり、夕方には黒い雲が広がり、雷、稲妻、雨のショーが始まります。この風景を見ていると『自然って、すごいな』と、なんだかワクワクしてきます。

先日久しぶりの停電があり、ろうそくで夜を過ごしました。村全体がとても静かな夜でした。数時間後パッと部屋に電気がつくと同時に、村のあちこちからすごい歓声が聞こえてきました。その喜びの声を聞いていると、私までうれしくなってきます。

エチオピア人の好きなところの一つは、感情の豊かなところ。昨年のオリンピックやスポーツの試合を彼らと一緒に見ていると、競技をしている人と一体になっているような観戦の仕方です。走る競技では、エチオピア人走者がライバルを抜くと飛び上がって喜び、抜かれれば大きなため息。3位以内に2人もエチオピア人が入れば、大きな大きな歓声。アジス出張中に行われていたサッカーの試合では、準決勝でエチオピアが勝つと、決勝かと思うほどの大騒ぎ。食事をしてた店のオーナーは、涙を流して喜んでいました。少しすると、道路では勝利を祝う車のクラクションが聞こえ、多くの人が車の後に

続き、お祭り騒ぎ！なんとも、人生を楽しんでいるなあと、またまたこちらまで楽しくなってきます。

プロジェクトですが、バイオガスの工事でも無事終わり、小学校に作った校舎・バイオガス等の監査のため、スタッフが書類の山に埋もれる作業が、長い間続きました。エチオピアは書類がものをいう国。何にでも書類が大量に必要で、こと会計となると、必要な書類が山ほどありました。国際NGOに登録されたことでエチオピアでの正式な会計業務を行うために、スタッフ達は弱音も吐かずに、もくもくと作業を進めてくれました。

3月中旬、会計報告書類をアジスの監査人に提出。その間にも、緑化スタッフは畝づくり、木の種まき、フェンス補修を行い、水プロスタッフは、ため池試験掘の準備・調整を行っています。3月18日には、アジスから在エチオピア日本大使ご夫妻が、バイオガスの引渡し式にご参加下さる為、ラリベラに見えました。これらが終わりみなホッとさせたせいか、全員で風邪を引き、事務所は監査書類の紙の山からティッシュの山に変わりました。

あつという間に3ヵ月が過ぎ去っていきます。この調子だと、キャンペーンのために日本戻る日もあつという間にやってきそうです。



## 今を大切に 2005年6月

皆さん、こんにちは。お元気ですか？今年も桜は綺麗だったでしょうか？ラリベラは4月から5月にかけて、ファシカという大きなお祭りがありました。聖書にそって2月から2ヵ月間、肉、卵、牛乳等を食べない断食が終わり、特に若い男の人にとっては（?!）待ちに待ったファシカ休日。市場は皆鶏や羊、やぎ、牛を買う人々にぎわい、各家庭でさばき休日を祝います。中にはその数日でお肉を食べあき、野菜が食べたいというほどお肉料理をたらふく食べます。日本のお正月みたいな感じでしょうか。

最近ラリベラで感じたことに、人が今を大切にしているという事があります。道で会うと今から家にいらっしやい、今は仕事なので、と言うと、ではいつこれる？明日？明後日？と聞かれる。電話がまだ各家庭で普及していないので、会ったときがとても

大切なんだと感じました。2、3日会わなかった友達は、タッフアシ（久しぶりじゃない、元気だった？）と言います。初め驚きましたが、人のつながりが深い彼らにとって、2、3日でも会わないとどうしているかな？と思うのでしょうか。人との距離が近いラリベラから、日本とはまた違う、何か大切な事を学んだ気がします。

プロジェクトですが、緑化事業は苗畑フェンス作り、木の種蒔、水遣り、日よけ作り、雑草取、野菜はほぼ収穫して村人に売りました。アークプラザの工事は石の基盤工事が終わり、メタル部分の工事に入りました。大雨季まえのこの時期は特に水がないのが問題。木への水遣りや、バイオガスにも水がいるのですが、ラリベラ小学校にはここ1ヵ月水が供給されていません（各家庭には5日ごとに供給）。それで

も今年は少雨後も数日に一度雨が降ってくれていたので、昨年よりはいい条件。大雨季が始まるまであと1ヵ月程。どうか上手くいきますように！

水プロは、いったん認められた車購入が、他の機関で承認されず、新たに車購入の手続きを一つ一つ調べていました。一度確認した事も、別の担当者に聞くと違う事を言われやり直しになることが、政府機関でも少なからずあるのがエチオピア。その間、ラリベラの水プロスタッフは、11程の溜池候補地を

チェックし、今回ラリベラに近いメダゲという場所を1個目の溜池造成地に決定しました。まだ車がないので各機関に頼んで車を借り、溜池掘りの準備を進めています。こちらは大雨季が始まるまでにできるだけ工事を進めたいと慌しくなってきました。

5月15日に5年ぶりの国政選挙があり、選挙熱はとても高かったです！14年間同じだった政党が変わるかもしれないのですから、当たり前かもしれないですね。



## とめどなく流れた涙 2005年8月

皆さん、こんにちは。お元気ですか？

7月15日無事に帰国しました。ラリベラは日差しは強いのですが、カラッとした暑さなので、日本の暑さはこたえます。

今年も植林ツアーに18名が参加されラリベラを訪れました。溜池を含めたFFF活動サイト見学、ラリベラ・ナクテラの小学生たちとの植林、ドラマ鑑賞、コンテストの表彰式…と、あっという間に時間が流れていきました。小学校の子供たちは、恥ずかしがりやの子が多く（とはいえ、ツアーの方たちをたくさんの子供たちが取り囲んでいました）、照れくさそうに、しかし満面の笑顔でツアーの皆さんと一緒に植林を楽しんでいました。緑化スタッフは、スタディツアー準備のかたわら、昨年、根付き率がとても高かったチバハ探しや、村での植林の準備も進めていました。

バイクが事務所に来たので、今まで片道1時間以上かけて歩いていたナクテラ行きは、この忙しい時期、とても助かっています。バイクで出かけるスタッフに、「ヘルメットは？安全運転でね！」と心配する私に「大丈夫！」と、うれしそうな顔で出かけていきます。

水プロジェクトのための車は、まだ購入できず、溜池サイトに行くために自治体や農業省に車やバイクを借りられるか問い合わせながら、溜池の掘り作

業や土固め作業をチェックしています。ところが最近、快く貸してくれていた自治体の車が部品故障のため、借りられなくなりました。最悪なことに、修理するためのお金もなく、この車はもう使えないだろうとのこと。今までこの車にとってもお世話になっていた私たちにとっては本当に辛いです。何とか早く車を購入しようと、アジスで奮闘の甲斐もなく最終的には認められず、がっくりと肩を落とすスタッフたち。ツアーでラリベラ入りしていた香織さんと相談し、外国人が話すスムーズにいくかもしれないと、イエローの案で私がバールダールに出向いても、やはり同じ結末…。十分にチェックして話し合いに臨んでも、個々話が違い、本当にエチオピアは難しい。

スタディツアーの一行がラリベラを離れ、それぞれの支払いや残務を済ませると、もう帰国は目の前。再度、車の見積もりを頼み、スタッフと不在中の仕事の話し合いをし、残りの仕事をどうにか済ませ、翌々日には日本に戻るためにアジスへと向かいました。

アジスから国際線に乗って2.3時間たった頃、とめどなく涙が出てきた。自分でも何の涙かわからないが、出てくる涙を止めることができなかった。キャンペーンがまもなく始まります。私にとって初めての報告会。皆様に会えることを楽しみにしています。



## 再赴任 2005年10月

皆さん、こんにちは。お元気ですか？1年半ぶりに日本に戻り、本当に1年半もいなかったのか？と思うほどの速さで日常に慣れていきました。ラリベ

ラでは当たり前でないこと、たとえば豊富な水、モノの豊かさ、利便さ、情報の多さなどにです。家族や友人のありがたさや日本の良い面に気づけたのは、

逆に1年以上離れていたからだろうと感じています。帰国前に大きな仕事を完了させなければならず、クリアになれば人生のつき物が落ちる？と思えるほどでした。

ラリペラを離れる前、出来る限りのことはしたので、どこかすっきりした気持ちで帰国でき、キャンペーンは今までにない体験でした。本当に自分が頑張った時に、自分にとって本当にうれしいことがもらえるんだと感じたキャンペーンでした。

エチオピアに戻る直前、監査が無事に終了したとの報告を受け、長かった問題がひとつ終わった…とホッとしました。そして、ラリペラに帰る前、アジスでの長かった車の問題が解決し、後は納車を待つばかりとなりました。本当にホッとしながら飛行機に乗ったのです。

エチオピアは私がラリペラにくる前に「強くなりたい!」という思いを本当にいろいろな形で、場面で、現実として現してくれて(あまりにも試練が続くので、もう少しゆっくりやってください!と願ったほど)、これまで大変だったけれど、これこそ、自分が願っていた強くなるための練習をさせてもらっていたのか?と突然感謝の気持ちが湧いてきました。そして、

窓の外を見ると、小さな虹を一周させたような光が見えました。この光が応援してくれているかのように感じ、またまた感謝でした。

今まで忙しすぎて、字の通り『心を亡くして』スタッフ達と接していたかもしれない…と反省し、そんなことを考えているうちに飛行機はラリペラ空港へ。ラリペラでは、花と歓迎のポスターで出迎えてくれるスタッフ達。アー、ありがたい。心から嬉しさと喜びが湧き上がりました。

緑化のプロジェクトは、7~9月が1年のうちで一番忙しい時期です。町や、学校に植林し、今年は約4万5千本の植林を済ませました。スタディーツアーご参加の皆さん、ご心配をおかけしましたが、皆さんと植えた木は元気に育っていました。水プロジェクトは雨季のため工事があまり進んでいませんが、車を待って順調に進めていく予定です。溜池の周りのグリーンベルトも作業が始まり、溜池がどんな風に完成するのか、村人たちと完成の日を今か今かと待っている状況です。

これからの残りの時を、そして毎日を、大切に過ごしたいと思っています。

## 11 いて当たり前でないこと 2005年12月

皆さん、こんにちは。お元気ですか?ラリペラに帰ってきて暖かく迎えてくれたスタッフのうち、サブレとベタマリアムの2人が勉強を続けたいということで、FFFを去りました。勉強をしてより良い人生を、という彼らの考えを実感しました。2人が辞めてしまうのはスタッフ皆とても残念に思いましたが、彼らの人生を考えると、笑顔で送ろうということになりました。

ラリペラの学生達は教科書を3、4人で共有しているようで、学校で書いたノートを何度も何度も見えています。自分の学生のころと比べると頭がさがります。テレビもラジオもまだ一般的でないので、勉強に集中できます。大学にいけなければ良い人生にできない、勉強して大学にいくことがとても大切だとよく学生さんから聞きます。

また、私の数少ない友達も、1人はアメリカへ、イヘノは結婚してイギリスへ、もう1人は仕事のため他の地へとラリペラを去りました。最後に残った

友達で一番仲良くしている友達も一時は家庭の事情で実家に戻るとい話しもでて、友達がみないなくなって寂しくなるけれど、今は色々な人の変化の時を受け入れようと思ったところ、彼女はラリペラで仕事を始めることになりました。本当に短い間に私の周りの人に変化が起こって驚いています。いて当たり前と思っていた人たちがいなくなったことにより、いつもいてくれて当たり前に思っていたはいけないと実感しました。彼女だけでも残ってくれてほっとしています。

プロジェクトですが、会計スタッフの試験を終えて新しくゲタチョウが来てくれました。水プロはメダゲの溜池作業が続いていますが、今収穫期に雨が続き、政府から溜池作業を中断して収穫作業をするようにと通達がありました。また車が10月末に来る予定だったので連絡待ちでしたがイスラムの断食があり、少し作業が遅くなっているとのこと。やっと11月中旬すぎに車がジプチに着いたと連絡があ

りました。これから免税レターをとる作業、車のチェック等の作業が始まります。またベタマリアムに替わるスタッフと3人目のスタッフ探しも続きます。

緑プロジェクトは環境クラブの先生、生徒達と野菜の畝、種まき、日よけ作り、水やり等が始まり、忙しくなっています。またかまど作り、過去植林の生存率チェック、昨年私ができなかったハンドクラフト（プラスチックゴミをクッションの中に入れて

クッション作り）の活動もしています。緑プロジェクトでは植林後の約1年を、水の少ないラリベラでどれだけ水やりや必要なら柵作りで木や野菜を守っていくか、そのことに多くを費やしています。少し離れた植林地の向かいは森林ガードのおかげで緑が増え、虎等の野生動物も見られるようになったとのこと。この日々のスタッフ、水遣り人、ガード達の地道な頑張り、ラリベラの緑を守ってくれていると植林地で成長している木々をみて実感しています。



## 最後の会報

2006年2月

皆さん、お元気ですか？新しい駐在員の高原さんが12月末に香織さんの出張と同時に赴任しました。溜池サイトチェック、水と緑プロジェクトの年間計画、予算計画、各コミュニティとの話し合い、ラリベラ水源のカンカニ視察、雇用契約書の話し合いと嵐のような忙しい日々を過ごしました。特に雇用契約書はこちらの状況とスタッフ側の思い、エチオピアの法律が混ぜ合わさって、一時は険悪な雰囲気。翌日にはスタッフの1人が辞めると言い出し、また話し合い…。これも最終的には皆雇用契約書にサインして、一段落。長い間このことはスタッフの間で問題になっていたの、話し合いが一段落してスタッフが契約書にサインした時には今までの疲れがどっと出てきました。

そしてとうとう、待ちに待った車がラリベラに到着しました。本当に長い道のりでした。地元NGOの友達に車を購入するのに10ヵ月もかかったので、車の名前はツグスト（忍耐というアムハラ語）に決めた！と冗談半分で話をすると、自分達のプロジェクトも承認を受けるのに8ヵ月もかかっているよ、と慰められました。

水プロジェクトは12月に日本から短期専門家として本田さんがラリベラ入りし、溜池サイトを一緒に回り、沢山のアドバイスを頂きました。オフィサーのイエロは本田さんに沢山溜池の質問をしアドバイスを頂き、安心して工事を進められるようになったと話しています。歓迎パーティでは、本田さんに同

行された奥様の歌と踊りも披露していただき、スタッフもこちらの踊りウスクスタを披露して、楽しいひと時をすごしました。1月中旬からクリスティと彼のお父さん（アイルランドでは有名な庭師）もラリベラに来てくれて、溜池や緑プロジェクトの仕事を手伝ってくれています。

緑化事業は、今年は昨年の事業を少し整理して進めていく予定ですが、今年末に新しい3ヵ年計画が必要になってきます。経験豊富な高原さんが赴任したことにより、新しくより安定したエチオピアフー太郎の森基金になる予感がしています。私の任期は残すところ2ヵ月となりました。なんだか不思議な感じです。2005年の監査が終われば、安心して気持ちよく日本に帰れそうです。

本当に駆け抜けた2年間でした。1日1日は長くても、終わってみるとあっという間。辛いことも山ほどあったけれど、そこから気づかせてもらったこと、ここに来なければ会えなかった素敵な友達に会えたこと、スタッフ達と力を合わせてフー太郎の森を守ってきたこと。スタッフ達は戦友です、本当に…。色々な意味でご褒美も頂きました。

皆さん、今までご支援本当に有難うございました。特にキャンペーンや頂いたお手紙で本当に頑張れました。日本事務所、新しい駐在員の高原さんに変わらぬご支援を御願い致します。

イグザベリスティン！（アムハラ語で神のご加護がありますように！）